

第6学年東組 国語科学習指導案

学習指導者 西吉 亮二

1 単元 「説得するための工夫を自分の投書に生かそう ―新聞の投書を読み比べよう―」

2 単元について

(1) 育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【育成したい「思考力」】

意見文を読み比べ、読み手を説得するための工夫を捉え、書き手の考えを捉えることで自分の考えを創造する力

書き手の考えに対して自分の考えをもつことに興味をもち、自分の考えを話し合うことで、読み手の考え方がさまざまにあるおもしろさに気づき、他の意見文でも自分の考えを創造しようとしている。

【学びに熱中する子どもの姿】

本単元では、教科書教材であるスポーツをすることの目的について書かれた四つの投書を読んだり、身近にある意見文を読んだりし、それらの書き手の考えに対する自分の考えを書くという言語活動を設定する。その中で学習指導要領 C 読むこと (1) ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」を B 書くこと (1) ウと関連付けて指導する。子どもたちは、複数の投書を読み比べることで、それぞれの書き手の読み手を説得するための工夫を捉える。読み手を説得するための工夫とは、主張の根拠として「自分が経験したこと」「見たり聞いたりしたこと」「資料に基づく具体的な数値」「有名人のことばを引用」等について述べていることである。これらを捉えることで、例えば「筆者は自分がけがをした経験を根拠として挙げて『スポーツは体に無理な負担をかけてまでするものではない』と主張している」のように書き手の考えを捉えることができる。書き手の考えを捉えることで、「書き手の主張にあまり賛成できないな。無理な練習をしてけがをした人もいるかもしれないけど、厳しい練習をして自分の限界に迫ってよかったと思う人もいると思うからだよ」のように書き手の主張やその根拠に対して自分はどうか考えるか、自分の考えを創造していくのである。

本「思考力」は上記のような学びに熱中する中で育成される。子どもたちは、四つの投書を読む際に書き手の考えに対して自分は賛成か反対かを考えながら読むだろう。そして賛成か反対か、また、その理由を考え、投書の書き手の考えに対する自分の考えをもち、友達と交流する。例えば、「僕は、スポーツは心と体の健康のためという書き手の考えにすごく納得するよ。その理由は、自分の経験を基に述べていて、けがをした人にしか分からない気持ちが伝わってくるからだよ」「私は、この書き手の考えにはあまり納得しないよ。その理由は習い事で厳しい練習をしているけれど、大会でベストが出たときは、うれしくて、今まで厳しい練習してきたよかったと思うからだよ」等と自分の考えを話し合うことで、同じ投書を読んでも考えがさまざまにあるおもしろさに気付くだろう。そうすることで、さらに「僕は、この投書には賛成していたけど、〇〇さんの考えを聞くと、賛成できない気がしてきたよ。他の意見文でも友達と考えを交流したいな」等のように、他の意見文についても、自分の考えを創造しようとしている姿を目指す。

(2) 新たな問題を共有する場を位置づけた単元構成について

事前の質問紙調査では、国語の授業での学びが生活の中で生かされていると感じている子どもは21名おり、読書や作文、言葉遣い等、生活のさまざまな場面につながっていることは実感している。しかし、普段の生活で新聞を毎日読むと答えた子どもは35名中6名で、新聞に対する関心が低いことが分かっている。さらに、単元前に新聞の投書について知っている子どもは、ほとんどいなかった。

本単元では、課題解決を通して習得した知識・技能が自分の思いや願いにつながることに気付ける単

元構成を行い、関心度を高めていきたい。新聞に対する関心が低いことから、共通教材の投書を読み比べる際に、意欲が低下すると予想される。そこで、意見文を書くという目標を設定した後に、身の回りのさまざまな意見文を見つけてくるという時間を位置づける。そうすることで、子どもたちは、教科書教材で読み手を説得するための工夫を学びながら、自分たちが見つけてきた意見文にも、それらの学びを当てはめながら関心をもって学習を進めていくだろう。このように、教科書教材で習得した知識・技能を自分の身の回りの生活場面と関連させ生かしていくことで、教科書教材の投書について自分の考えを創造し、友達とその考えを交流した後、自分たちの見つけた意見文でも、自分の考えを交流したいという新たな問題が生まれるだろう。これを解決していくことで、子どもたちが自分たちが見つけたさまざまな意見文で、くり返し自分の考えを創っていくことができるようにしたい。

(3) 単元計画と学習意欲への働きかけ (総時数 8時間)

| 次 | 主な子どもの意識と学習の流れ | 学習意欲への働きかけ |
|---------|---|--|
| 第一 次 | <p>① 自分の意見文をつくる計画を立てよう 自分の投書をつくるというゴールを設定し、そのための計画を立てる。</p> <p>② 身の回りの意見文を探そう 身の回りに投書以外にもコラムや広告等、意見文がたくさんあることに気付く。調べた意見文に目を向けながらも、まずは、教科書教材で読み手を説得する工夫を捉え自分の投書作りに生かしていくという課題を共有する。</p> | <p>③④ 自【構成〇分かりシート】 文章構成を捉えられるように主張や根拠等を一緒に色分けしていくことで、構成に着目して読むことの良さに気付く、自分で意見文を読む際に生かせるようにする。</p> |
| 第二 次 | <p>③④ それぞれの投書の書き手の考えを読み取るよう 教科書の四つの投書を読むことで、書き手の主張や、読み手を説得するために「自分が経験したこと」「見たり聞いたりしたこと」「資料に基づく具体的な数値」「有名な人のことばを引用」という四つの根拠の挙げ方を捉え、それに対して自分が賛成か反対か考える。賛成か反対かがさまざまに表出され、どうして友達はそう考えたのか知りたいという思いをもつ。</p> <p>⑤ それぞれの投書についての自分の考えを友達に伝えよう 本時 5 / 8</p> | <p>③④⑥ 自・関【広がり∞コーナー】 共通教材で学習した読み手を説得するための工夫がどのように使われているのか示し、学習の広がり捉えられるようにする。</p> <p>④⑤ 関【賛成メーター】 投書に対して、自分がどれくらい賛成しているかを視覚的に示し、友達の考えとの異同に気付けるようにする。</p> |
| 第三 次 | <p>書き手の考えに対して自分がどれくらい賛成なのか、その理由を伝え合うことで読み手によって考えがさまざまあるおもしろさに気付く、「他の意見文でも友達と考えを交流したい」という新たな問題を共有する。</p> <p>⑥ さまざまな意見文でも自分の考えをもち友達と交流しよう さまざまな意見文で自分の考えを創造し、友達と交流する。読み手によってさまざまな考えをもつことの理解を深め、自分が投書を書く際には読み手がどう捉えるかを考えながら投書を書こうと意識する。</p> | <p>④⑤ 関【賛成メーター】 投書に対して、自分がどれくらい賛成しているかを視覚的に示し、友達の考えとの異同に気付けるようにする。</p> <p>----- 振り返り -----</p> <p>①～⑧【次への一歩】 授業の最後にノートに「分かったこと」「難しかったこと」「もっとしてみたいこと」の三つの観点で振り返る。班で交流することで、授業で難しかったことについて友達に質問することができ、振り返り場面で協働することのよさを実感したり、新たな問題を共有したりする。</p> |
| 第三 次 | <p>⑦ 自分の投書を書くために構成を考えよう</p> <p>⑧ 読み手を説得するための工夫を使って、投書を書こう</p> <p><評>読み手を説得するための工夫を捉え、書き手の考えに対する自分の考えを述べている。</p> | |

3 本時の学習指導

(1) 目標

書き手の考えを捉え、書き手の考えに対する自分の考えを説明することができる。

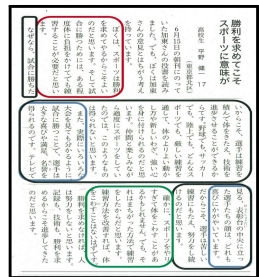
(2) 学習指導過程

| 学 習 活 動 | 子 ど も の 意 識 | | | |
|---|--|--|---|---|
| <p>1 前時を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p> <p style="text-align: center;">関【賛成メーター】</p> | <p>前の時間は四つの投書の主張や説得するための工夫を捉えたよ。</p> <p>僕は、○の投書にはすごく賛成だよ。 私は、○の投書については、あまり賛成していないよ。</p> <p style="text-align: center;">どれくらい賛成なのかが、みんなそれぞれ違っているね。</p> <p style="text-align: center;">どうしてこんなに考えが違うのか、みんなの考えを聞きたいよ。</p> | | | |
| <p>それぞれの投書に対する自分の考えを友達と伝え合おう</p> | | | | |
| <p>2 それぞれの投書について自分の考えをまとめる。</p> <p>(1) 自分で考える。</p> <p>(2) グループで交流する。</p> <p style="text-align: center;">関【賛成メーター】</p> <p>(3) 全体で交流する。</p> | <p>この投書には、みんな考えがばらばらだね。まずはこの投書について話していこう。</p> <p>僕は、①の投書にとくに賛成だよ。その理由は、自分の経験を基にしていて、けがをしたその人にしか分からない気持ちがあると思うからだよ。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> ①の考えに納得するよ。その理由は、自分が経験したことに勝るものはないと思う。けがをした人にしか分からない気持ちがあるよ。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 私は、書き手の考えに納得しないよ。厳しい練習でけがをした人の中に、自分の限界を試すことが来てよかったと感じた人がいると思うよ。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 私は、何となく書き手の考えに納得するんだけど、その理由はまだはっきりしないよ。友達のことを聞いてみたいよ。 </td> </tr> </table> <p>自分の経験を基に述べることで、その人にしか分からない思いが伝わるようになりました。</p> <p>自分の経験を基にしても、その経験に共感できる人ばかりではないんだと分かりました。</p> | ①の考えに納得するよ。その理由は、自分が経験したことに勝るものはないと思う。けがをした人にしか分からない気持ちがあるよ。 | 私は、書き手の考えに納得しないよ。厳しい練習でけがをした人の中に、自分の限界を試すことが来てよかったと感じた人がいると思うよ。 | 私は、何となく書き手の考えに納得するんだけど、その理由はまだはっきりしないよ。友達のことを聞いてみたいよ。 |
| ①の考えに納得するよ。その理由は、自分が経験したことに勝るものはないと思う。けがをした人にしか分からない気持ちがあるよ。 | 私は、書き手の考えに納得しないよ。厳しい練習でけがをした人の中に、自分の限界を試すことが来てよかったと感じた人がいると思うよ。 | 私は、何となく書き手の考えに納得するんだけど、その理由はまだはっきりしないよ。友達のことを聞いてみたいよ。 | | |
| <p>3 再度、自分で考える。</p> | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 反対していたけれど、友達の考えを聞いたら、賛成するところがあると思ったよ。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 友達の考えを聞くと、賛成出来ないと思う気持ちが強くなったよ。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> 最初は、理由がはっきりもてなかったけど、交流することで理由がもてたよ。 </td> </tr> </table> | 反対していたけれど、友達の考えを聞いたら、賛成するところがあると思ったよ。 | 友達の考えを聞くと、賛成出来ないと思う気持ちが強くなったよ。 | 最初は、理由がはっきりもてなかったけど、交流することで理由がもてたよ。 |
| 反対していたけれど、友達の考えを聞いたら、賛成するところがあると思ったよ。 | 友達の考えを聞くと、賛成出来ないと思う気持ちが強くなったよ。 | 最初は、理由がはっきりもてなかったけど、交流することで理由がもてたよ。 | | |
| <p>4 本時を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">振【次への一步】</p> | <p>友達と交流すると、いろんな考えが聞けておもしろいよ。</p> <p>友達と交流すると、自分だけでは気付かなかったことに気付くことができたよ。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 次は、今まで集めてきた他の意見文についても友達と考えを交流したいな。 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 自分が投書を書く時は、より多くの人々が納得してくれる根拠の挙げ方をしてみたい。 </td> </tr> </table> | 次は、今まで集めてきた他の意見文についても友達と考えを交流したいな。 | 自分が投書を書く時は、より多くの人々が納得してくれる根拠の挙げ方をしてみたい。 | |
| 次は、今まで集めてきた他の意見文についても友達と考えを交流したいな。 | 自分が投書を書く時は、より多くの人々が納得してくれる根拠の挙げ方をしてみたい。 | | | |

(3) 本時の詳細

前時までの子どもの意識 学習活動1

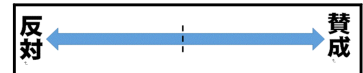
まず、前時までに読み取った書き手の考えの中心である主張と説得するための工夫を確認するために、それらが一目で分かるように構成〇分かりシートを拡大したものを板書上に提示しておく。【**白**【構成〇分かりシート】】。また、四つの投書にどれくらい賛成するかを表出させ、考えがさまざまにあることを知った子どもたちは、友達はどう考えたのだろうかという思いをもつだろう。そこで本時の学習課題を設定しておく。



【構成〇分かりシート】

学習活動2 (1)

四つの投書のうち、まず、グループで賛成メーターを見せ合い、それぞれの考えのばらつきが大きかった投書から考えていくよう助言する。また、子どもたちが自分の考えを創造するには、賛成や反対の理由を話し合うことが大切だと確認する。自分の考えをもつのが苦手な子どものために、先に考えをもっている子どもを指名し、例を示す。その際、考えを創造するポイントとして、自分の知識や経験と書き手の考えとを比べることで理由が明確になるということを全体で共有する。さらに書くことが苦手な子どものために、ワークシートにはメモ程度の記述でよいことを助言する。



【賛成メーター】

学習活動2 (2) (3)

グループで友達に自分の考えを発表する際には、どれくらい賛成かと、その理由を必ず述べることを再度共通理解させる。自分の考えをもつのが苦手な子どもが安心して話し合いに参加するために、まだ、自分の考えをあまりもっていない人は、先に友達の考えを聞いてから発表してもよいことを伝える。子どもたちは、友達の考えを聞くことで、自分だけでは気付かなかった考えを知ることができ、一つの投書についても多面的に考えることが出来る。

また、全体での交流では、投書に対する自分の考えだけでなくグループで交流した際、自分が納得した友達の考えや、自分の考えの変化についても発表するよう助言する。そうすることで、自分のグループで話し合ったものだけでなく話し合っていない投書についてもさまざまな考えを知ることができ、読み手によって考え方はさまざまであるおもしろさに気付いていくであろう。

学習活動3

グループや全体で交流したことを踏まえて、再度自分の考えを見直す時間を設ける。そうすることで、友達と交流することで自分の考えを変えたり、強化させたりするだろう。ここでも賛成メーターでどれくらい賛成できるかの位置を示したり、どのように変わったかを記述したりして、最初にもった自分の考えと友達と交流した後の考えとを比較させることで、自分の考えの深まりやグループでの協働のよさを実感するだろう。

学習活動4 (振り返り)

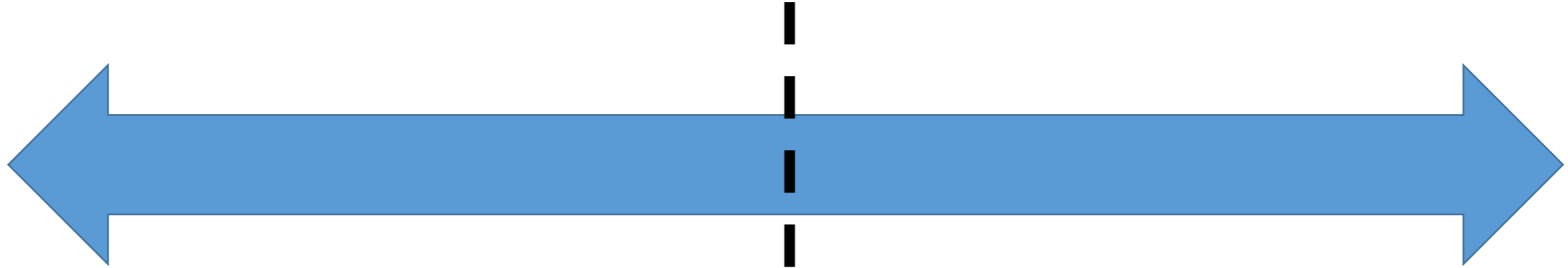
本時に「分かったこと」・「難しかったこと」・「もっとしてみたいこと」の三つの観点でノートに振り返らせる。その後、グループで振り返りを共有する【**黒**【次への一步】】。その中で本時難しかったことを友達に聞いて、十分理解出来なかったことを補ったり、新たにチャレンジしたい問題を共有したりするだろう。そして、全体で「これまで集めてきた意見文で考えてみたい」や「より多くの読み手が納得してくれる根拠の挙げ方をしてみたい」等の新たな問題の中から、「他の意見文についても考えたい」という思いを全体で取り上げ、次時の課題として設定する。

(4) 総括的評価

書き手の考えを捉えることで、書き手の考えにどれくらい賛成できるかや、その理由を説明することができる。

<例>書き手の考えに賛成できないよ。無理な練習だけがをした人の中にも、厳しい練習をして自分の限界に迫ってよかったと思う人もいると思うからだよ【方法：発言，ワークシート】

反对



赞成